

第1回下北沢国際人形劇祭2024

DAILY JOURNAL

DAY1

Wednesday,
February 21,
2024



第1回下北沢国際人形劇祭 (SIPF) がはじまりました

SIPFへようこそ！私は3人いるフェスティバル企画統括チームのひとり、山口遥子（人形劇研究者）です。あとふたりは安藤僚子（空間デザイナー）とヤクブ・ホラ（アートアニメ・人形劇プロデューサー）です。どちらも気の良さ仕事と仕事の速さでは定評があります。この3人は毎日会場でうろうろしています。

このフェスティバル新聞「デイリージャーナル」は、毎日発行されます。この新聞は参加型のメディアで、つまり明日以降にこの紙面を埋めていただくのはあなたであるという想定です。また、「デイリージャーナル編集部」という若者向けプログラムに参加して下さった28名の編集部メンバーにも、毎日のメイン公演やサイドプログラムについてのテキストやイラストを寄稿いただきます。編集部員の紹介は明日発行の次号から行いますので楽しみに！関あゆみさんというSIPFスタッフがこのプログラムのまとめ役です。紙面のデザインは、Hand Saw PressのスタッフFuさんとZoeさんとLeさんがやってくれ

ます。明日から、ぜひ毎日この「デイリージャーナル」を手にとってくださいね！

さて、ということで明日から本格発行する「デイリージャーナル」ですが、第一号はなにしろ皆さんがまだ何も書いてくれないので、中身がありません。そこで、私が数ヶ月前からメールマガジンとして発行していた「SIPF便り」を抜粋して掲載します。SIPFが生まれるまでのドタバタの一端をご覧ください……

SIPF 便り (第1号) 2023年11月20日

私の2023年は、1月のシカゴ国際人形劇祭で始まりました。シカゴ人形劇祭は、毎年1月末に開催される、アメリカ最大の国際人形劇フェスティバルです。ディレクターはThomas Blairさん。鮮やかな緑色の長いヒゲ、ツイードのスリーピーススーツで、どこに居ても目立つ人です。しかも勉強熱心で、日本の文楽発祥の「三人遣い」がアメリカやヨー

ロッパの現代人形劇界でなかばブームになっていることに着目し、これを主題にした修士論文を書いているところだそうです。フェスティバルを主催する傍らで、すごいバイタリティです。もう還暦を過ぎていらっしやと思うのですが（若々しくて年齢不詳ですが）。

アメリカの人形劇祭は、ヨーロッパや日本のように公的機関が助成するのではなく、ほぼ全てがシカゴのお金持ちの個人助成によって成り立っているという点で、特殊です。シカゴ国際人形劇祭のプログラム巻末を見ると、個人名と金額（数千万円という規模）が並んでいて圧巻です。もしプログラムを手に入れる機会があったら、ぜひ「パトロン」一覧のページを見てみて下さい。

ところでSIPFにも、パトロネス・パスというものがあります。これをご購入いただくと、このフェスティバルのパトロネス/パトロンとして、全作品の観覧券（優先入場つき）のほか、VIPとしてさまざまな特典があります。フェスティバルを応援して下さい。ぜひご検討ください！

2月にはニューヨークに行って、「パペットスラム」という短編人形劇の寄席みたいなイベントに出会いました。

ニューヨークのオフブロードウェイにある「ラママ実験劇場」は日本でも有名ですが（寺山修司の天井桟敷などもも行って上演しています）、この劇場は1961年の設立からずっと人形劇に着目していて、今でも「パペットスラム」を定期的に行っています。あの『ライオンキング』のジュリー・テイモアも、ラママの人形劇愛が生んだ大演出家の一人です。この「パペットスラム」をぜひ日本で行い、若い人々の人形劇への参入を促したい！と思った私たちは、米国・日本・チェコの3カ国で「インターナショナル・パペットスラム」というプラットフォームを新たに立ち上げることにしました。3カ国6組ほどのアーティストが短編人形劇を持ち寄って、一度に発表するという試みです。第一回目をSIPFで行ったあと、2024年6月にピルゼン（チェコ）、10月にニューヨーク、と回ります。

SIPFでは、2月23日（祝・金）にBONUS TRACK 横の「世田谷代田仁慈保育園 ピアッツァ」という会場で実施します。チェコから二組、プエルトリコから一組、日本から五組参加。すっごく面白そうです。

また私の2023年の話に戻ります。5月にはドイツのエアランゲンという街で開催される、ドイツ最大の人形劇フェスティバル「figuren.theater.festival」に行きました。これは二年に一度開催されます。ドイツ中の人形劇人が集まります。下北沢国際人形劇祭に招聘予定のアーティストにもけっこういま

てください。

アリエル・ドロンの（Ariel Doron）はまだ30代ですが、もうヨーロッパの人形劇祭では招聘されたことのないところはないぐらい、超売れっ子の一人です。もともとイスラエル版セサミ・ストリートのエルモ役に若干20歳で抜擢され活躍した実力派テレビ人形遣いでしたが、普通に操れる人形は操り尽くしたとでもいうように、どんどん操りづらい（というかまったく可動部のない）オブジェクトへと興味が移行。ベルギーのオブジェクトシアターの第一人者アニェス・ランボー氏（Cie. Gare Centrale）などに師事したのち、ソロパフォーマーとしてオブジェクトシアターの作品を作り始めました。主題はイスラエルの政治社会状況、特にイスラエルの絶え間ない戦争とパレスチナ入植政策を批判的に問うものです。

アリエル・ドロンの作品は2/24（土）に上演されます。しかも、チェコの手遣い人形劇とあわせて豪華二本立て（ダブルビル）です！このダブルビルのテーマは、「ハンドペットの現在地」。人形劇の中でも最も伝統的な手法の一つ「手遣い人形」は、現代人形劇においてどのような表現を獲得しているのか？ その最新の、刺激的な姿を見て頂くプログラムです。

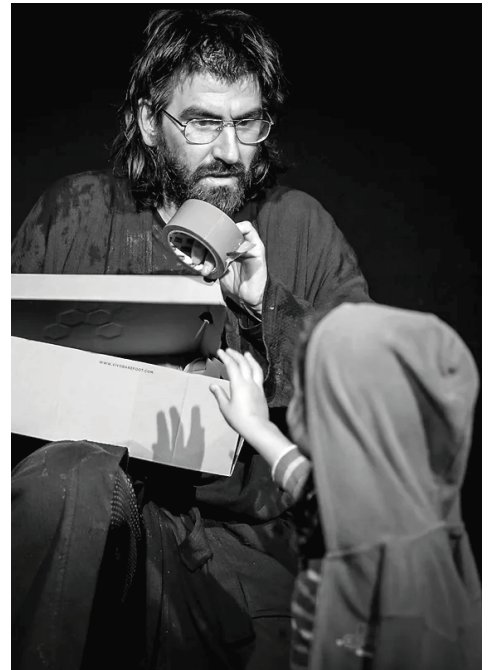
した。日本で通常イメージされるような人形劇（人型・動物型の人形）はなく、オブジェクトシアター、マテリアルシアター、あるいはオブジェクトの扱いにやや比重が置かれたオルタナティブシアター、などを含むより広い意味での「人形劇」が大勢を占めています。ドイツに行かれる方はこのフェスティバルは要注目ですよ！

SIPF 便り（第2号）2024年1月14日

ドイツ南部のエアランゲンは、とりたてて目立つところのない小さな大学町です。しかしここは、二年に一度行われる「figuren.theater.festival」（人形・演劇・祭）という人形劇の巨大なお祭りの会場になるので、人形劇人にとっては思い入れの強い町です。

上演作品の質&量からして、たぶんドイツではトップクラスの人形劇祭だと思います。一週間以上にわたり、ドイツ中心にヨーロッパ全域から招かれた人形劇（あるいはオブジェクトシアター/マテリアルシアター/ビジュアルシアター）が朝から晩まで上演されます。上演劇団は70以上、会場は30もあります。

なにしろ大きな（=予算が潤沢な）フェスティバルですから、ドイツの著名劇団「ベルリナーアンサンブル」の人形劇作品とか、ベルギーの著名ダンスカンパニー「モスーボンテ」の仮面劇とか、ビッグ&ゴージャスな作品がたくさん来ていましたが、シンプルなセット



の小さな良作も沢山見られます。私も朝から晩まで人形劇を見倒しましたが、中でも特に印象に残った&観客からアツい歓声を浴びていたのが、アリエル・ドロンの『BOXED』とダラー・マクローリンの『STICKMAN（棒人間）』です。この二作品は、下北沢国際人形劇祭にもやってきます！二人ともヨーロッパ人形劇界では有名どころながら、初来日です。

彼らの名前を日本で聞いたことのある人は殆どいないと思いますが、どちらもいま欧州人形劇界で超超超アツい二人ですので紹介させ

SIPF 便り（第3号）2024年2月12日

今回は、2月22日（木）に上演する、ダラー・マクローリンの『STICKMAN（棒人間）』の話。

人形劇界あるあるではありますが、ダラーさんもまた、「何の役にも立たなそうこの真摯な探究」に生活の大部分をつぎ込んでいる、ストイックなパフォーマーです。例えば、一本の棒を身体はどこに立てられるか？（背骨の一つ一つ）を朝から晩までずつと探究しています。その営みの中で、なぜか不思議と人形劇に近づいてきてしまった人です。

ダラーさん自身が、「バランス」について話していることを訳して引用します。「バランスは、動きのあり方の一つです。異なる力と力のあいだのやりとりです。バランスは、いつも気付かれないまま続いています。失われた瞬間にはじめて、その重要性が気付かれます。バランスは、私たち人間存在を物理的に左右していますし、すべての物事における満ち引きのような動きのメタファーでもあります。平等、不平等。多すぎ、少なすぎ。生きる、死ぬ。棒のバランスをさぐる営みを通じて、私の身体に



デイリージャーナル部員の寄せ書き紹介



青木 直哉
AOKI NAOKI

文を書き絵を描くジャグラー。
1991年横浜生まれ横浜育ち。
Writer, drawer, and
juggler. Born and raised
in Yokohama since 1991.

IG/X @jugglernaoki



戒之靖
EBISUNOYASUSHI

中国出身の院生で、歌舞伎・
文楽を専攻している。同時に、
中国伝統演劇や古代ギリシア
演劇にも深い興味を抱いてい
る。舞台芸術を通じて、異な
る文化を繋げ、人々に芸術の
力と美しさを伝える使命感を
持っている。また、演劇の中
で異なる伝統やスタイルを融
合させ、新しい表現を生み出
すことに情熱を傾けている。



詩舞澤沙衣
SHIBUSAWASAI

大学在学中に東大新月お茶の
会に所属、卒業後は限界研に
所属。『現代ミステリとは何か』
(南雲堂)で斜線堂有紀論を執
筆。WINGCUP 若手レビュアー
企画に参加中。



カジノヒナコ
KAJINOHINAKO

1998年生まれ。立教大学現代
心理学部映像身体学科を卒業。
在学中は主に美術担当として
映画制作に没頭。小道具をエツ
サホイサと運んだりしていま
した。ただ在るだけのモノに
対して愛があります。卒業後、
大学同期の運営する Web サ
イト『kikusuku』にライター
として参加。詩とあわせてイ
ラストも投稿しています。現
在チエコ旅行を計画中。



YUE
ETSU

中国出身、日本在住。
現在イラストレーター、グラ
フィックデザイナーとして活
動している。主にデジタルイ
ラスト描いている。



魚田まさや
SAKANATAMASAYA

こんにちは! 普段は演劇(人
間が主役の)の脚本やエッセ
イなどを書いています。祖父
母の家におびた数回分のこ
けしがあり、幼い頃はああい
うニュートラルな顔つきの人
形に激しいおそれを抱いてい
ました。顔があるのもないの
も出てくる舞台、一緒に楽し
みましょう!



谷賢上
GUSHINSYA

人形劇鑑賞には初心者だが、
日常から芸術への接点を作り
たく、色々な芸術の表現方法
にも薫陶を得たく、今回はこ
のような意欲で参加していま
す。英語ライターとしてみな
さんに自分の感じた人形劇の
魅力や見どころを届けたいと
思います。よろしく願いま
す!

命が吹き込まれます。棒が私を生かすのです。まるで、人形遣いが人形を生かすように。私のしていることは、反一人形劇なのです。」

ダラーさんはすでに10年ほど前にサーカスの世界で複数の賞を取っていましたが、ここ数年のあいだにヨーロッパの人形劇界に「発見」され、人形劇界でも次世代のスターになりつつあります。写真だけだとかなり地味な作品に見えます。何しろ、舞台の上は男&棒&テレビスクリーンだけです。でも、全くそれだけではありません。ネタバレするので何も言えませんが、知的ジェットコースターにのったような楽しさ面白さです。ドイツ中の人形劇祭で絶賛されたのも納得、「人形劇」の極北を見に来て下さい！（もちろん日本初演です。）

ところでもう一つ、ここだけの話ですが、下北沢国際人形劇祭はただいま信じられないトラブルに見舞われております。フェスティバル狂想曲の一節としてお聴き下さい……

フェスティバル最終日の2月28日に上演される、Opposable Thumb Theatre（オポッサブル・サム・シアター）による『道化恐怖症』の演具の話です。もともと、船便で80日かけて、イギリスのブリストル港から日本の東京港まで運ぶ予定でした。ですが、英国シエンカー社がなんと我々の演具の入ったコンテナを、ブリストル港に1ヶ月間も置き忘れ（しかも輸送に必要な書状「カルネ」を紛失）。その間に、イスラエルがガザ攻撃を激化させました。そのため紅海的情勢が不安定になり、ヨーロッパの船舶がスエズ運河を通れなくなってしまいました。すべての船舶が、コロンブスみたいに「喜望峰」を回るといいます。いやいや、遠回り～！それを待っていたらフェスティバルが終わってしまうので、急遽航空便に切り替えることに。いま、運送会社と刺すか刺されるかの価格交渉中です。

でもそんなトラブルはどうでもいいんだ…来日する人形劇/オブジェクトシアターは、

すべて最高の作品ばかりだからです！！あと10日で、下北沢国際人形劇祭はいよいよ開幕です。世界中の人形劇祭を見回って、その中で最も素晴らしいものだけを選び抜いた、世界でここでしかあり得ないプログラムです。どの作品も全て、世界中の人々の心をくすぐり倒し、笑わせ倒しているコメディばかりです。退屈でお尻がむずむずしてしまったり、この演出家はなんでこんなに時代遅れなんだろう、この役者はなんでこんなに下手なんだろうと腹が立つことはありません。安心して舞台を楽しみに来て下さい！席一つ分、あなたの場所を用意して、カンパニーとフェスティバルのスタッフが全力で楽しませようとしています。下北沢でお待ちしています！

下北沢国際人形劇祭
企画統括 山口遥子

今日の裏方 TODAY'S STAFF

1. 名前
2. 役職
3. SIFPに一言
4. 準備中のおとも
(曲/本/映画)



1. 山口遥子

2. 企画統括

(フェスティバルのドラマトゥルギー策定、ファンドレイジング、招聘する作品リサーチ～契約、国内外で生じるトラブルの処理など)

3. 気付けば構想6年？ようやく実現した、人形劇&オブジェクトシアターの最前線にフォーカスしたまつりです。超うれし～！自慢に聞こえたら恐縮ですが以前にバンドをやっていたときに「片手間なのに高くオリティ」と言われたことがあり、それって最高じゃんと思いました。このフェスティバルの準備も「片手間」でやろうとがんばってきました。根がまじめなので没頭しがちですが、これからもうまく距離を保ちながら続けて行きたいです。

4. 本田祐也「エキセントリック・コイガール」、水中、それは苦しい「まじんのおのようこ」、Už jsme doma「Tadyna」

1. Jakub Hora

2. 企画統括 (招聘する作品リサーチ～契約、チェコでのファンドレイジング、ヨーロッパ人形劇祭についての知見共有、ヨーロッパ内での細かい連絡、輸送トラブルの解決、重い荷物運びなど)

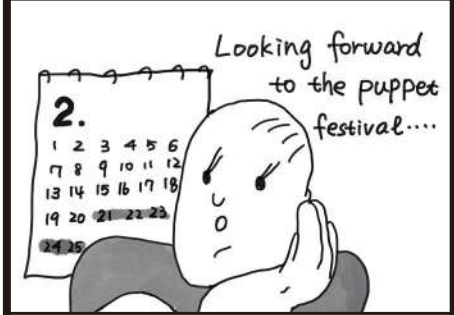
3. I co-create the dramaturgy and programme for the SIFP festival. I am also partly responsible for the production of the festival, especially in the area of cooperation with international artists. I communicate with artists in Europe and I am the contact

person for artists from abroad in Europe. For the festival, I am also responsible for fundraising for the performances of artists from the Czech Republic at the festival. As well I am part of performance by Alfa Theatre as a technician and sound master. SIFP is particularly unique in Japan with a program that focuses on modern puppetry and object theatre. It is a pleasure to work on such an interesting project and with a very friendly and skilful organizing team.

(抜粋訳：こんな面白いプロジェクトの仕事ができて嬉しいし、スタッフがみんな有能ですごくフレンドリーなので楽しいです。)

MANGA

SONG YUE @eozislet



今日からスタート！
ぜひ寄って行ってね

Hand Saw Press の
ガリ版ジャーナル基地



日本を代表するリソグラフィスタジオ Hand Saw Press が、下北沢国際人形劇祭のデイリー・ジャーナルを作成！といっても、誰からの寄稿も歓迎。ちょっと立ち寄って、フェスティバルの感想や、人形劇にまつわる自分の活動をシェアする記事を書いていってちょうだい。翌日の午後に印刷して配布します。



1. 安藤僚子

2. 企画統括（デザイン面での総合的なディレクション、有能なスタッフ集め、人形劇以外の領域との接続、国内外で生じるトラブルの処理など）

3. 普段は空間のデザイナーとして、店舗や展示空間を作っているのですが、なんで専門外の人形劇祭の企画統括をしているのかというと、主宰の遥子さんに巻き込まれてしまったんですね。昔、遥子さんと一緒に政府の仕分けによって閉鎖された児童館で働いていた音楽家と子供達のための音楽会を作ったことがあって、その時「反権威主義的な芸術の祭をまた一緒に作りたいね〜」みたいなこと言ってたら、巻きに巻かれて、今、下北沢で走りまわっております。

4. Emir Kusturica & The No Smoking Orchestra. 久しぶりにクストリッチャーの「UNDERGRAUND」みなおした。主役3人がおでこ付き合わせて歌うシーンと、花嫁が飛んでくるシーンと、最後の丘が動いて離れていくシーンでトリップできる。

1. 関あゆみ

2. コーディネーター（招聘アーティストの来日前〜来日後のケア、デイリージャーナル編集部）

3. フェスティバルってこうやってつくるのか！と学びの日々を経て、いよいよ開幕です。公演を見る以外にも朝ごはん、デイリージャーナル、音楽テントなどなど、いろんな関わり方があるので、来てくれた人みんなと祭を完成させられたら嬉しいです。

4. チャベック『ダーシェンカ』を読み、カウリスマキ『枯れ葉』を見た結果、脳内に住みつきはじめた犬と一緒に準備しています。

1. 小森あや

2. 進行（サイドプログラムの進行・運営、企画統括3名の頭から抜けている点の全体的なチェック）

3. 安藤さんかっこいいことやっているな〜とのんびりしていたら、いつの間にか下北沢の地に降り立っていました。パフォーマンスに関わりながらも、触れることのない領域におそろおそろ近づいています。いまだかつてない威力のSIPFタイフーンに飛び込んで、未見のオブジェクトシアターの世界を彷徨いたいと思います。

4. TBS ラジオ、Radio Garden

日時：2月21日（水）～27日（火）
10:00～20:30
会場：下北沢アレイホール 3F
無料・予約不要

参加特典

寄稿してくれた方に、フェスティバル BAR で使える 100 円 OFF 券をプレゼント！

参加方法

- ① 会場に来る
フェスティバルセンター（下北沢アレイホール）の、ガリ版ジャーナル基地にお越しください。
- ② 感想やイラストを書く
専用の用紙にプログラムのレポートやイラスト、一言コメントなどを自由に寄稿しましょう。
- ③ デイリージャーナルを読む
Hand Saw Press とデイリージャーナル編集部員で編集し、翌日の公演までに印刷して、各会場で配布します。（ホームページで PDF をダウンロードできます）